

## 7 作成手順の概略

県産業連関表の作成は、国の「令和2年（2020年）産業連関表作成基本要綱」（産業連関部局長会議）、基本方針及び基本要綱の決定の後に、計数を求めるための資料の収集・整理、計数の推計と調整、結果公表という手順で行っています。

### (1) 部門分類の設定

県産業連関表作成の基礎となる各種の統計は、それぞれが異なった分類で作成されるため、まず産業連関表の部門分類（概念・定義・範囲）を設定します。これにより、県内の産業活動を1つの表の上に統一的な規格で記録することが可能となり、以降の作業はこの分類に従って行います。

### (2) 特別調査の実施

県産業連関表の作成にあたっては、精度の向上を図るため、県内事業所における投入構造及び移出入の基礎資料を収集する「令和2年和歌山県商品流通調査」を令和3年度に実施しています。

### (3) 県内生産額の推計

「地域産業連関表作成基本マニュアル」（総務省政策統括官（統計基準担当）付産業連関表担当統計審査官室）や「令和5年度地方統計機構支援事業 技術的支援実施結果報告書」（株式会社日本アプライドリサーチ研究所）等の関係資料を踏まえて、各種の統計資料から財・サービスに係る各部門別の県内生産額（CT）を推計しています。

### (4) 投入表（試算表）の作成

内生部門と外生部門（粗付加価値部門）は、県内生産額（CT）に全国表の投入係数を乗じて試算投入額を求めた上で、それぞれ経済センサス－活動調査組替集計等の統計資料による調整を行い、投入表を作成します。ただし、資料が不足する部門は、調整を行っていません。

### (5) 最終需要部門の推計

県民経済計算、家計調査等の統計資料を利用し、最終需要項目別に部門ごとの推計を行います。また、移出入については商品流通調査や各種の流通統計、本県の業務資料等を用いて推計しています。なお、資料の制約等から一部は、国の係数や構成比率により推計しています。

### (6) バランス調整（投入・産出額の調整）

(5)の時点では、投入側・産出側それぞれの推計であるため、別々の表となっています。これを1つの表として成立させるために、全部門の計数について調整（バランス調整）を行います。

バランス調整について、投入の構造は(4)の時点でほぼ調整されている一方、産出構造の調整が完了していない段階であるため、産出側での調整（主に最終需要部門）を中心に行っています。また、最終需要部門を持たない部門については内生部門で、また産出側に調整の余地がない場合は、投入側で調整を行う等、部門に応じた個別具体的な対応となっています。

最終的には、列方向の和と行方向の和とが一致するように調整し、いくつかの必要な条件が成立することを確認した上でマトリックスとして四捨五入の端数処理を行い、表を完成させています。

列方向           ： 内生部門＋粗付加価値部門＝生産額〔列〕

||

行方向           ： 内生部門＋最終需要部門＝生産額〔行〕